2026-10-29 終値時点 · 2026年第3四半期決算まで（2026-09-26。決算発表の8-Kは2026-10-29提出、第3四半期10-Qは未提出）

インテル INTC

インテル：第3四半期売上高20.9%増、第4四半期ガイダンスは市場予想を下回り時間外で20.9%下落

2026年第3四半期の売上高は$16.5B（前年同期比20.9%増）、GAAP売上総利益率は43.0%、調整後（non-GAAP、会社が株式報酬やリストラ費用などを除いて算出する指標）EPSは$0.52で、いずれも会社ガイダンスと市場予想を上回った。データセンター・AI事業（DCAI）の売上高は$7.3Bで前年同期比78%増である（8-K、2026-10-29）。第4四半期ガイダンスは売上高$15.0〜16.0B、調整後売上総利益率38.0%、調整後EPS$0.25で、市場予想をそれぞれ約9.2%、42.7%下回る。要因はPC顧客の在庫調整（CCPG売上高は前四半期比20%超の減少見込み）とイスラエルのFab 28爆発事故（売上高約$300M、売上総利益率200bp）であり、株価は時間外取引で20.9%下落し約$72.85となった。検証の結果、GAAP利益は米国政府との合意に基づく預託株式（Escrowed Shares）デリバティブ負債の公正価値変動に大きく左右されていることを確認した。1〜9月累計の損失は$12.6B、第3四半期単独では$1.0Bの利益で、税引前利益の25.2%を占める。ルールに基づく推奨レーティングは中立である（加重スコア2.40、中立区分の下限）。

レーティング · 12カ月 · 対 S&P 500	株価	時価総額	1年騰落率
買い 2026-10-30 確定 · レーティングの定義	$92.07 2026-10-29 終値	$486.7B Technology	+122.7% 年初来 +149.5%
今期予想PER	**次回決算**		
59.9x EPS 1.54（コンセンサス平均）	2026-10-30 yfinance カレンダー		

01

マーケット環境

2026年10月29日終値時点で、S&P500は年初来12.8%上昇、ナスダック総合指数は12.7%上昇、テクノロジーセクターETF（XLK）は31.6%上昇した。直近1カ月ではナスダックが2.3%、XLKが3.0%下落しており、AI設備投資と金利への懸念から半導体セクターが調整した。米10年国債利回りは4.99%で1カ月で27bp低下、VIXは17.2で1カ月で1.2ポイント上昇した。

当社株の1年ベータは3.11で、指数より値動きがはるかに大きい。年初来149.5%上昇し、S&P500に対する超過リターンは+136.7ポイントであるが、足元では大きく下落して

いる。終値は9月24日の$127.39から10月29日の$92.07へ27.7%下落し、1カ月で20.6%下落、50日移動平均を9.4%下回る。第3四半期決算発表後、時間外取引でさらに約20.9%下落した。この水準で引けた場合、株価は200日移動平均（約$86.8、推定）を下回り、S&P500に対する3カ月・6カ月の超過リターンはいずれも−20ポイントを下回る（推定）。
マクロ要因が当社株に波及する主な経路は二つある。一つは金利で、FRBは金利を据え置いたが12月の利上げを示唆しており、高バリュエーションの成長株の割引率を押し上げる。もう一つはメモリ価格で、DRAMとSSDのコスト上昇がPC本体価格を押し上げ出荷台数を押し下げ、当社最大の事業であるCCPG（第3四半期売上高の49.0%）に直接影響する。

指数とセクター

	直近	1週間	1カ月	3カ月	年初来	1年
S&P 500	7,720.39	+0.7%	+0.6%	+3.8%	+12.8%	+12.0%
ナスダック総合	26,184.72	+0.7%	-2.3%	+4.2%	+12.7%	+9.3%
ダウ工業株30種	52,342.56	-1.0%	+1.9%	+0.3%	+8.9%	+9.9%
ラッセル2000	2,859.22	+2.7%	+1.8%	-2.9%	+15.2%	+15.1%
Technology セクター ETF	188.74	+3.5%	-3.0%	+7.5%	+31.6%	+24.8%
INTC	**92.07**	**+7.7%**	**-20.6%**	**+1.0%**	**+149.5%**	**+122.7%**

金利・ボラティリティ・相対パフォーマンス

VIX 指数	米10年債利回り	ドル指数	対 S&P ベータ	3カ月の超過リターン	1年の超過リターン
17.20	4.99%	101.67	3.11	-2.8%	+110.7%
1カ月 +1.16	1カ月 -27bp	1カ月 +0.30	1年相関係数 0.50	対 S&P 500	対 S&P 500

マクロ・市場イベント

日付	イベント	当該銘柄への影響	出典
2026-10-28	FRBがFF金利を3.75〜4.00%に据え置き、2名が利上げを主張して反対票	声明は経済活動の評価を「力強い」に引き上げ、インフレは依然高いとした。市場は12月の利上げの可能性を示すものと受け止めた（Bloomberg）。波及経路：政策金利見通しの上昇→長期金利と株式リスクプレミアムの上昇→今期予想PER約60倍の当社株のバリュエーションに下押し圧力。ベータ3.11の当社株は指数より金利ショックへの感応度が高い。	CNN / Bloomberg

日付	イベント	当該銘柄への影響	出典
2026-10-22	半導体株が大幅に調整し、ナスダック総合指数が1日で2.6%下落	Metaが2026年の設備投資ガイダンスを公表して約7%下落し、原油高も重なってAI投資の回収に対する懸念が半導体株に広がった。当社株は同日8.0%下落し$85.49となった。波及経路：AI設備投資のリターンへの疑念→データセンター関連半導体のバリュエーション低下。DCAI事業はAI推論とオーケストレーション向けCPU需要の恩恵を受けており、こうしたセンチメントの変化に敏感である。	Mitrade
2026-10-12	Gartner：2026年第3四半期の世界PC出荷台数は前年同期比22.4%減の5,540万台	Gartnerは、減少の主因は流通在庫の過剰ではなく、メモリなど部品コストの上昇による価格上昇であるとしている。同期間のIDCの数値は−20.1%である。波及経路：メモリ価格上昇→PC本体価格の上昇と出荷減少→OEMがCPU購入を減らし在庫を圧縮。インテルは第3四半期決算説明会で、2026年のPC出荷台数が約12%減、2027年がさらに約10%減になるとの見通しを示し、第4四半期のCCPG売上高を前四半期比20%超の減少とした。	Gartner

02

個別イベント

2026-10-29

好材料 決算

データセンター需要は引き続き供給を上回り、DCAI売上高は前年同期比78%増

DCAIの第3四半期売上高は$7.3B、営業利益は$3.0Bで、営業利益率は41.5%（前年同期23.4%）である（8-K、2026-10-29）。経営陣は第4四半期のDCAI売上高が前四半期比約15%（mid-teens）増加し、サーバーCPU出荷数量は2026年、2027年ともに30%超増加すると見込む。供給制約は2027年を通じて2028年まで続き、2027年上期が最も逼迫し、基板の生産能力は主に下期に増強されるとした（決算説明会記録）。これが中期的な利益の主な支えであるが、実現のペースは生産能力に制約される。

出典：8-K（2026-10-29）/ 业绩会纪要

2026-10-29

悪材料 会社発表

経営陣はPC市場の調整が2027年上期まで続くと予想

ジンスナーCFOは決算説明会で、2026年のPC出荷台数は約12%減（下期は20%超減）、2027年はさらに約10%減で上期の方が弱いと述べた。顧客の在庫調整は主に第4四半期と2027年第1四半期に生じ、第2四半期まで続く可能性があるとし、2027年のメモリ供給については「楽観していない」と述べた。また2027年は「おそらく」フリーキャッシュフローがプラスにならず、2027年の設備投資は「大幅に増加する」としたが、金額は示さなかった（決算説明会記録、Investing.com）。

出典：Investing.com 业绩会纪要

2026-10-29

悪材料 決算

第3四半期業績はガイダンスを上回るも、第4四半期ガイダンスは市場予想を大きく下回る

第3四半期の売上高$16.5B（20.9%増）と調整後EPS$0.52（市場予想約$0.40）はいずれも予想を上回った。第4四半期の売上高ガイダンス中央値$15.5Bは前四半期比6.1%減で、市場予想$17.08Bを下回る。調整後売上総利益率ガイダンス38.0%は第3四半期の44.1%から6.1ポイント低下し、調整後EPSガイダンス$0.25は市場予想$0.44を下回る。GAAP税率は31%、GAAP EPSは$0.10を想定している（8-K、2026-10-29）。ガイダンス中央値で試算すると、2026年通期の売上高は約$61.7B（16.8%増、推定）、調整後EPSは約$1.48（推定）で、yfinanceの市場予想$1.54を下回る。株価は時間外で20.9%下落した。

出典：8-K（2026-10-29）

2026-10-26

中立 レーティング

最近のレーティング変更：New Streetが買いに、JPモルガンが中立に引き上げ

過去90日間の15件のレーティング変更のうち、引き上げは3件、新規カバレッジは1件である。TD Cowen（$115→$95）とSusquehanna（$115→$105）は決算前に目標株価を引き下げ、Rosenblattは売りを維持した（目標株価$80）。10月29日時点でyfinanceが集計する47社のうち32社がホールドで、目標株価の中央値は$112である。いずれも第4四半期ガイダンス公表前のものであり、今後引き下げられる可能性が高い（推測）。

出典：yfinance

2026-10-14

悪材料 ニュース

イスラエルのキリヤット・ガット工場（Fab 28）で爆発事故、約2週間生産停止

事故により作業員2名が死亡した（Times of Israel、2026-10-15）。経営陣は第4四半期への影響を売上高約$300M、売上総利益率200bpとし、ほぼすべてがIntel 7（10nm）のサーバー製品に関するものと説明した（決算説明会記録）。Reutersは、会社が2四半期合計で約$600Mの売上高への影響を見込み、同週末までに生産の立ち上げが再開する予定と述べたと報じた。2027年第1四半期への影響額は8-Kで開示されておらず、確認できず。

出典：Times of Israel / Reuters

2026-08-10

中立 8-K

$23.0Bの普通株公募増資を完了

1株$95.00で210,526,315株を発行し、引受会社は8月11日に31,578,947株のオーバーアロットメント・オプションを全額行使した。合計約$23.0Bである（8-K、2026-08-12）。資金使途は設備投資や運転資本を含む一般事業目的である。株式数は第2四半期末の50.43億株から約4.8%増加した。増資により流動性は改善した（第3四半期末の現金及び短期投資は$54.0B）が、既存株主の希薄化を伴い、生産能力拡大期に外部資金を要することを示している。

出典：8-K（2026-08-12）

赤は好材料、緑は悪材料（中国式の配色）。灰色は中立、青は影響未確定を示す。

2026-04-08 中立 8-K

アポロが保有するアイルランドFab 34合弁会社の49%持分を$14.2Bで買い戻し

買収資金は手元資金と$7.5Bブリッジローン（金利4.75%）で賄い、ブリッジローンは4月30日に新規発行社債$6.5B（クーポン4.650%〜6.200%、2031〜2066年満期）で返済

過去90日のアナリストレーティング変更（15件、直近13件を表示）

日付	機関	アクション	レーティング	目標株価
2026-10-27	Rosenblatt	main	Sell → Sell	80 → 80
2026-10-27	Wedbush	reit	Neutral → Neutral	98 → 98
2026-10-26	RBC Capital	reit	Sector Perform → Sector Perform	100 → 100
2026-10-26	New Street Research	up	Neutral → Buy	0 → 125
2026-10-21	Susquehanna	main	Neutral → Neutral	115 → 105
2026-10-19	TD Cowen	main	Hold → Hold	115 → 95
2026-10-19	JP Morgan	up	Underweight → Neutral	85 → 85
2026-10-06	Mizuho	main	Neutral → Neutral	92 → 114
2026-09-24	TD Cowen	reit	Hold → Hold	115 → 115
2026-09-15	Tigress Financial	main	Buy → Buy	118 → 145
2026-09-10	Piper Sandler	init	– → Neutral	0 → 110
2026-09-08	Northland Capital Markets	up	Market Perform → Outperform	0 → 120

yfinance の集計値であり、個別には検証していない。up は引き上げ、down は引き下げ、main は据え置き、init は新規カバレッジ、reit は再表明を示す。

03

レーティングとスコアカード

当社レーティング

買い 今後12カ月のトータルリターンが S&P 500 を10〜20ポイント上回ると予想 · スコアカード加重点 2.40

最終レーティングは買いとし、ルールに基づく推奨の中立（加重スコア2.40）より上位とした。主な根拠は次のとおりである。①データセンター向けCPUは供給不足が続き、第3四半期のDCAI売上高は前年同期比78%増、営業利益率は41.5%である。経営陣はサーバーCPU出荷数量が2026年、2027年ともに30%超増加し、供給制約は2028年まで続くと見込む。②時間外価格約$72.85は9月24日終値$127.39を約43%下回っており、第4四半期ガイダンスに含まれるPCの在庫調整とFab 28事故の影響は株価に相当程度織り込まれている（推測）。③8月の増資後、現金及び短期投資は$54.0B、ネットキャッシュは約$3.9Bであり、生産能力の拡大を支えられる。④Intel 18Aの歩留まりは社内計画を上回り、Intel 14Aは2027年のリスク生産を予定しており、外部ファウンドリー顧客の獲得は追加の上振れ要因となる。主なリスクは、PCの調整が2027年上期まで続くこと、調整後売上総利益率のガイダンスが38.0%に低下すること、2027年のフリーキャッシュフロー

がマイナスとなる可能性、バリュエーションが依然同業を上回ることである。2027年第1四半期ガイダンスでCCPGの下げ止まりが確認できない場合、または外部ファウンドリー顧客が予定どおり公表されない場合は、レーティングを見直す。

レーティングは公開情報に基づくリサーチ上の見解であり、特定の個人の資産状況を前提としたものではない。ルールと分布については次を参照: レーティングの定義

ファンダメンタルズ	バリュエーション	モメンタム	決算の質	リスク
4 / 5	1 / 5	2 / 5	3 / 5	2 / 5

リスクの点数は高いほどリスクが低いことを示す。5項目の加重点から推奨レーティングを算出し、発行者の確認を経て確定する。

採点の根拠

ファンダメンタルズ
4 / 5

第3四半期の売上高は前年同期比20.9%増、直近4四半期（TTM）売上高は$59.9Bで12.1%増、調整後営業利益率は前年同期の11.2%から19.6%に上昇した（8-K、2026-10-29）。参照基準では四半期増収率20%超で5点となるが、1段階引き下げた。第4四半期ガイダンス中央値は前年同期比13.4%増、前四半期比6.1%減収に相当し、調整後売上総利益率は44.1%から38.0%に低下する。経営陣は2027年のPC出荷台数がさらに約10%減少すると見込む。DCAIは高成長である一方、ファウンドリーは赤字が続く（第3四半期営業損失$1.9B、営業利益率−27.7%）。

第3四半期売上高+20.9%、TTM+12.1%。調整後営業利益率19.6%。第4四半期ガイダンスは前年同期比+13.4%、売上総利益率38.0%

バリュエーション
1 / 5

10月29日終値$92.07とyfinanceの今期市場予想EPS$1.54で算出したPERは59.9倍で、同業（AMD、TSMC、エヌビディア、クアルコム、テキサス・インスツルメンツ）中央値24.7倍を約143%上回り、1点の区分に該当する。時間外価格$72.85とガイダンスから試算した2026年調整後EPS約$1.48（推定）でも、PERは約49.2倍で1点の区分にとどまる。PEG（59.9倍÷0yから+1yの予想EPS成長率40.8%）は約1.5で、区分の調整は行わない。2027年の市場予想EPS$2.16はガイダンス公表前のものであり、下方修正される可能性がある（推測）。

今期PER59.9倍（時間外ベースで約49.2倍、推定）、同業中央値24.7倍。PEG約1.5

モメンタム
2 / 5

10月29日終値ベースで、S&P500に対する超過リターンは3カ月−2.8%、6カ月−9.6%、1年+110.7%、年初来+136.7%であり、株価は50日移動平均を9.4%下回り、200日移動平均を6.1%上回る。これは3点の区分に該当する。時間外の20.9%下落を考慮すると、その水準で引けた場合は3カ月・6カ月の超過リターンがいずれも−20ポイントを下回り、株価は200日移動平均を割り込む（推定）ため、2点とした。1年の超過リターンは依然プラスであり、1点とはしない。

超過リターン3カ月−2.8%、6カ月−9.6%、1年+110.7%（終値ベース）。時間外−20.9%

決算の質
3 / 5

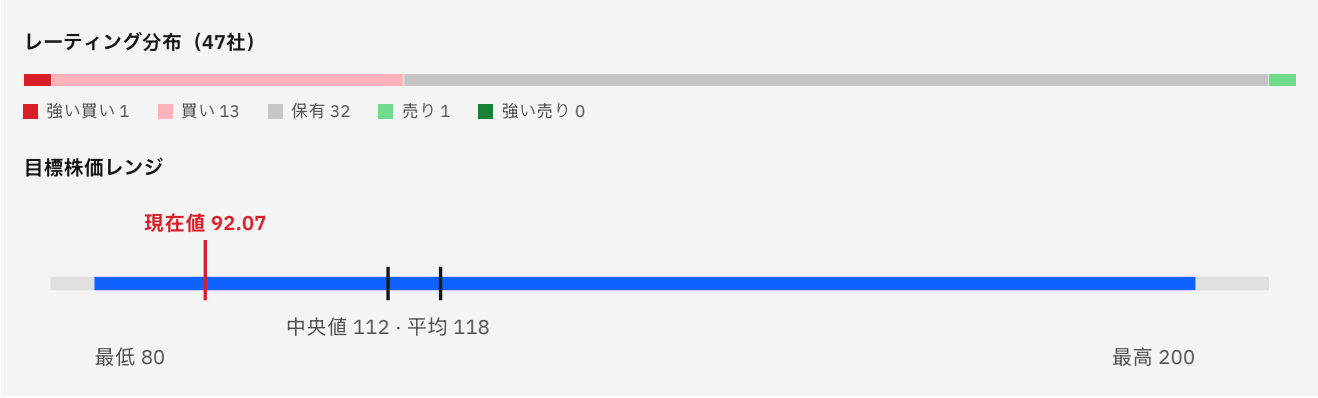
5点から2点減点した。第3四半期の営業外収益$1.46B（持分投資利益$0.33B＋受取利息・その他（純額）$1.13B）は税引前利益$3.98Bの36.7%を占め、25%を超えるため2点減点した。このうち預託株式デリバティブ負債の公正価値評価益$1.0Bが25.2%を占める（8-K、2026-10-29）。この項目は1〜9月累計で$12.6Bの損失であり、GAAP利益は株価と逆方向に大きく変動する。調整後指標は預託株式損益、持分投資損益、事業売却損益を除外しており、前年と定義は変わらないため減点しない。TTM純利益はマイナス（−$12.0B、主に預託株式の損失と第1四半期の$3.9Bののれん減損）であり、フリーキャッシュフロー / 純利益の基準は適用しない。TTMフリーキャッシュフローは$3.8Bである。棚卸資産は$13.1Bで前年同期比13.7%増と、売上高の20.9%増を下回るため減点しない。

第3四半期の営業外収益は税引前利益の36.7%（預託株式評価益25.2%）。1〜9月の預託株式損失$12.6B

リスク
2 / 5

5点から3点減点した。①1年ボラティリティ78.1%、1年最大ドローダウン−41.9%。②上位3社の顧客が2025年売上高の43%、期末売掛金の47%を占める（10-K、2026-01-23）。③設備投資コミットメント$12.8Bとその他の購入コミットメント$6.7Bの合計$19.5Bは、2025年の営業キャッシュフロー$9.7Bの約2.0倍である（10-K、2026-01-23）。減点しなかった項目：第3四半期末の現金及び短期投資$54.0Bに対し総負債

コンセンサス



yfinance の集計（アナリスト42人、更新時期は不明）。分布を示すのみであり、目標株価を支持するものではない。

04

財務分析

四半期業績

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後 EPS	営業CF	フリーCF
2025-06-28	$12.9B	+1.5%	+0.2%	27.5%	-24.7%	$-2.9B	-0.67	$2.1B	$-1.5B
2025-09-27	$13.7B	+6.2%	+2.8%	38.2%	5.0%	$4.1B	0.90	$2.5B	$121M
2025-12-27	$13.7B	+0.2%	-4.1%	36.1%	4.2%	$-591M	–	$4.3B	$800M

四半期末	売上高	前期比	前年比	粗利率	営業利益率	純利益	希薄化後 EPS	営業CF	フリーCF
2026-03-28	$13.6B	-0.7%	+7.2%	39.4%	-23.1%	$-3.7B	-0.73	$1.1B	$-2.5B
2026-06-27	$16.1B	+18.8%	+25.4%	40.4%	11.1%	$-11.0B	-2.16	$7.0B	$4.5B

出典：SEC XBRL。フリーキャッシュフロー＝営業キャッシュフロー－設備投資。第4四半期の EPS は XBRL で欠落することが多く、会社発表値を優先する。

バリュエーション

基準	EPS	PER
GAAP、直近12カ月	-2.12	–
調整後、直近12カ月（アナリスト基準）	1.38	66.7x
今期予想（0y）	1.54	59.9x
来期予想（+1y）	2.16	42.6x

バリュエーション表は10月29日終値$92.07で算出しており、時間外の下落は反映していない。時間外価格約$72.85では時価総額は約$387B（5,310百万株、推定）、ガイダンスから試算した2026年調整後EPSは約$1.48で、PERは約49.2倍となる。2027年の市場予想$2.16では約33.7倍となるが、この予想は第4四半期ガイダンス公表前のものである。調整後EPSは株式報酬（第3四半期は1株当たり$0.11）と預託株式損益を除外している。

現在の株価で算出。予想 EPS は yfinance が集計したアナリストのコンセンサス平均であり、調整後ベースである。

決算の要点

GAAP利益変動の主因は預託株式デリバティブ負債である：yfinanceは2026年第2四半期の−$12.74Bをother incomeに分類しているが、原文ではこのうち$12.5Bが預託株式の公正価値評価損である（10-Q、2026-07-24）。これらの株式は2025年8月の米商務省との合意に基づき、会社がCHIPS法のセキュア・エンクレーブ（Secure Enclave）事業の資金を受領するのに応じて1株$20.00で米国政府に引き渡される。株価が上昇すると負債が増加して損失となり、株価が下落すると利益となる。第2四半期末の負債の公正価値は$15.6Bである。第3四半期は株価が下落し、$1.0Bの利益を計上した（8-K、2026-10-29）。この項目は非資金項目であり、調整後指標では除外されている。

基礎的な数値は一致する：EDGAR XBRLとyfinanceの売上高、純利益、GAAP EPS、営業キャッシュフロー、売掛金、棚卸資産は2025年第3四半期〜2026年第2四半期の各四半期で完全に一致する。第3四半期の数値は8-Kのプレスリリースによる：売上高$16,513M、営業利益$2,522M、インテル帰属純利益$3,320M、希薄化後EPS$0.60、営業キャッシュフロー$5,082M（調整表）。決算説明会記録の「第3四半期営業キャッシュフロー$5.91B」は8-Kと一致せず、8-Kを採用する。

yfinanceの営業利益は原文と異なる：2026年第1四半期はyfinanceが$0.93B、原文が−$3.14Bであり、差額の主因はリストラ及びその他費用に計上された$3.9Bののれん減損（ほぼすべてMobileye関連）である（10-Q、2026-07-24）。yfinanceはこうした項目を除外しており、GAAP営業利益ではない。

設備投資とフリーキャッシュフローには複数の定義がある：キャッシュフロー計算書では投資活動と財務活動の双方に「有形固定資産の取得」の行がある（1〜9月はそれぞれ$10.2Bと$1.6B）。会社の調整後フリーキャッシュフローは政府補助金を控除し、パートナー（SCIP）の出資純額を加算したもので、第3四半期は$1.64Bである。営業キャッシュフローから投資活動の設備投資を差し引くと$1.07Bとなる。経営陣は2026年の総設備投資を約$20.0Bとしている（決算説明会記録）。

貸借対照表：第3四半期末の現金及び短期投資は$54.0B（第2四半期末$29.7B）で、増加分は主に8月の$23.0Bの増資による。総負債は$50.1Bである。棚卸資産は$13.1Bで2025年末比12.5%増加し、仕掛品が67.3%を占める。非支配持分$16.6Bは主にBrookfieldが保有するアリゾナSCIPの49%持分とMobileyeの外部株主23%による。

原資料のみに記載された事項

預託株式デリバティブ負債：第2四半期末の公正価値は$15.6B、未引き渡しは1.43億株で、うち7,100万株は基本株式数に含まれる（10-Q、2026-07-24）。第3四半期末の数値は10-Qを待つ必要がある。

アイルランドFab 34の買い戻し：2026年4月にアポロの49%持分を$14.2Bで買い戻し、資本取引として処理した（8-K、2026-04-08）。1〜9月の「パートナーへの分配」によるキャッシュアウトフロー$14.4Bの大半がこれに当たる。

アリゾナSCIP：インテルとBrookfieldが51%/49%を保有し、インテルが主たる受益者として連結し、生産分の100%を購入する権利を持つ（10-Q、2026-07-24）。1〜9月にBrookfieldなどのパートナーが$5.0Bを出資した。

購入及び設備投資コミットメント：2025年末時点で設備投資コミットメント$12.8B、その他の購入コミットメント$6.7B（10-K、2026-01-23）。

顧客集中：上位3社の顧客が2025年売上高の43%、期末売掛金の47%を占める（10-K、2026-01-23）。

顧客前受金：第2四半期末のその他の長期負債には、将来の供給確保のために顧客が支払った前受金$1.2Bが含まれる（10-Q、2026-07-24）。

訴訟：EireOg特許訴訟の原告は$2.0B超を請求しており、インテルはAWS、Cisco、Dell、HPE、IBM、Lenovo、Oracleに補償を提供している。2026年4月、Cisco案件で陪審は非侵害と評決した（10-Q、2026-07-24）。

イスラエルのリスク：Fab 28はIntel 7製品を生産する（10-K、2026-01-23）。2026年2月以降のイランとの紛争はリスク要因に挙げられている（10-Q、2026-07-24）。

該当なし：8-K item 4.02、監査人の交代、内部統制の重要な不備は確認されなかった。

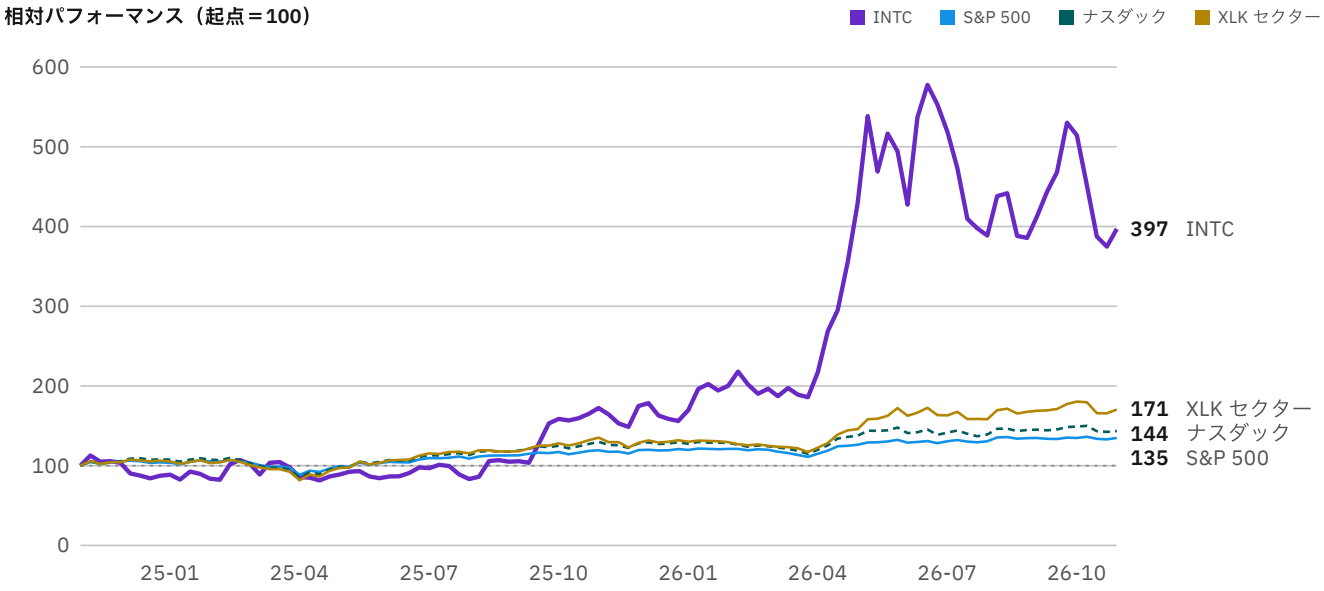
データベンダー数値の訂正

項目	yfinance	原資料（計算方法付き）
freeCashflow	$4.87B	**$3.78B**（TTM、推定）＝営業キャッシュフロー$17.48B−投資活動の有形固定資産取得$13.71B（2025年第4四半期〜2026年第3四半期。第3四半期の設備投資＝1〜9月$10.22B−上期$6.20B）（8-K、2026-10-29）。会社定義の調整後フリーキャッシュフローは第3四半期$1.64B
forwardPE	42.6x	2027年度（+1y）の予想EPS$2.16を使用している。今期（2026年）ベースでは59.9倍である。ガイダンスから試算した2026年調整後EPSは約$1.48（第1四半期$0.29＋第2四半期$0.42＋第3四半期$0.52＋第4四半期ガイダンス$0.25）で、終値ベースのPERは62.2倍
trailingEps	−$2.12	第3四半期を含んでいない。更新後のTTM GAAP希薄化後EPSは **−$2.41** ＝−$0.12−$0.73−$2.16＋$0.60（10-K、10-Q、8-K）
operating_income（2026年第1四半期）	$0.93B	GAAP営業利益は **−$3.14B** で、差額の主因はリストラ及びその他費用に計上された$3.9Bののれん減損（Mobileye）である（10-Q、2026-07-24）
other_income（2026年第2四半期）	−$12.74B	このうち **$12.5B** は預託株式デリバティブ負債の公正価値評価損（非資金項目、米国政府との合意に起因）であり、営業損失や投資売却損ではない（10-Q、2026-07-24）

05

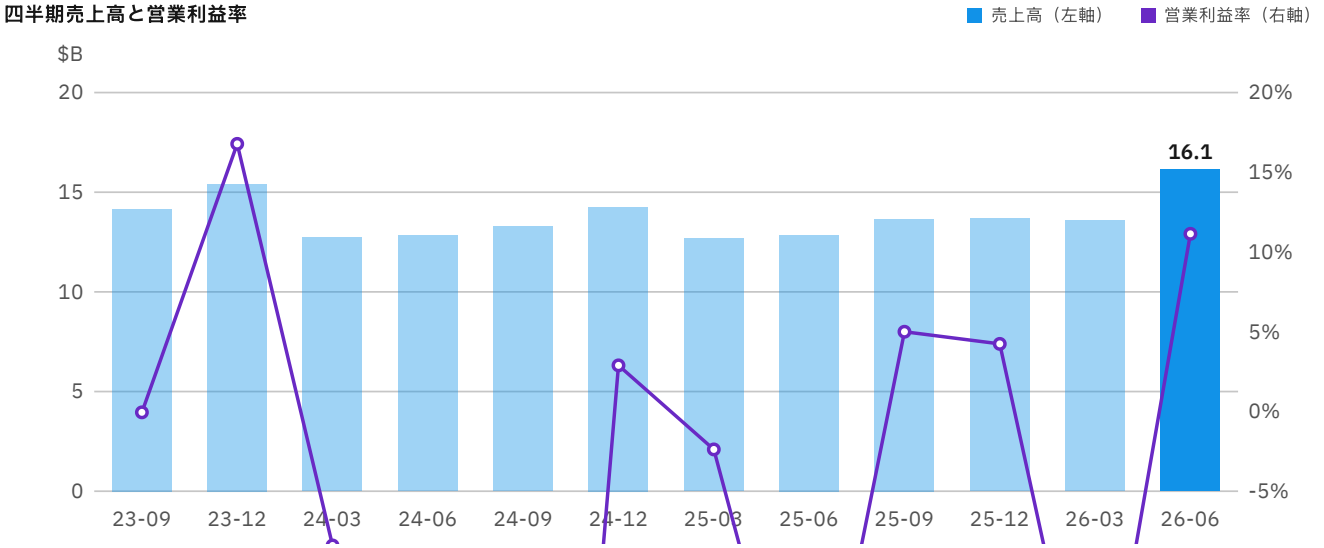
株価推移

相対パフォーマンス（起点＝100）



週次終値（調整後）、2024-11-03 を100として指数化。右端の数値は期末値。

四半期売上高と営業利益率



直近12四半期。出典：SEC XBRL。

06

同業比較

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER 実績	PER 今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
INTC	**Intel Corporation**	**$486.7B**	**-20.6%**	**+149.5%**	**+122.7%**	**–**	**59.9x**	**+25.4%**	**38.9%**	**12.2%**
AMD	Advanced Micro Devices, Inc.	$924.7B	-6.8%	+164.5%	+114.3%	144.5x	74.5x	+50.1%	55.7%	17.3%

ティッカー	名称	時価総額	1カ月	年初来	1年	PER 実績	PER 今期	売上成長率	粗利率	営業利益率
TSM	Taiwan Semiconductor Manufac	$2.24T	-5.5%	+43.2%	+43.0%	28.5x	24.7x	+50.9%	65.8%	58.7%
NVDA	NVIDIA Corporation	$5.16T	-6.0%	+14.8%	+3.4%	27.2x	22.9x	+105.9%	74.7%	66.2%
QCOM	QUALCOMM Incorporated	$198.0B	+0.7%	+10.1%	+5.9%	21.5x	17.7x	-4.0%	54.2%	18.5%
TXN	Texas Instruments Incorporat	$286.1B	+11.1%	+83.4%	+100.3%	40.2x	34.5x	+27.7%	60.2%	47.5%
同業中央値		*$924.7B*	*-5.5%*	*+43.2%*	*+43.0%*	*28.5x*	*24.7x*	*+50.1%*	*60.2%*	*47.5%*

yfinance の集計値であり、決算書とは照合していない。今期PER＝株価 ÷ 今期（0y）予想 EPS とし、forwardPE が来期ベースとなる問題を回避している。同業の出典：--peers。中央値は当該銘柄を除く。

同業としてAMD（CPU/GPUの直接の競合）、TSMC（ファウンドリーの競合）、エヌビディア（データセンター）、クアルコム（PC向けArmプロセッサ）、テキサス・インスツルメンツ（自社工場を持つアナログ半導体メーカー）を選定した。終値ベースで当社株の今期PERは59.9倍で、AMD（74.5倍）を下回るのみで、TSMC（24.7倍）、エヌビディア（22.9倍）、テキサス・インスツルメンツ（34.5倍）、クアルコム（17.7倍）を上回る。直近四半期の営業利益率12.2%（yfinanceベース、第2四半期）は同業で最も低く、TSMCとエヌビディアは58%を超える。当社株のバリュエーションは現在の収益水準ではなく、ファウンドリー事業の転換とデータセンター向けCPUの需給に対する期待を主に反映している。TSMCとテキサス・インスツルメンツは収益構造が当社と大きく異なる点に留意が必要である。

07

スマートマネー

機関投資家・政治家の保有状況：追跡対象のうち 5 人が INTC を保有

人物	データ	報告期間	評価額 / レンジ	ポートフォリオ比率	四半期の変化
ルネサンス・テクノロジーズ	13F 保有	2026-06-30	$1.0B	1.4%	一部売却
チェイス・コールマン	13F 保有	2026-06-30	$594M	2.5%	買い増し
ジョージ・ソロス	13F 保有	2026-06-30	$14M	0.2%	新規
レイ・ダリオ	13F 保有	2026-06-30	$5M	0.0%	新規
張磊	13F 保有	2026-06-30	$2M	0.2%	一部売却
スタンレー・ドラッケンミラー	13F 保有	2026-06-30	$0	0.0%	全売却

人物	日付	取引	金額レンジ
ナンシー・ペロシ	2026-07-24	買い	$500,001 – $1M
ナンシー・ペロシ	2026-07-24	買い	$250,001 – $500,000
ナンシー・ペロシ	2026-05-29	買い	$1M – $5M

各追跡対象の最新の公開済み 13F、インサイダー報告、資産公開に基づく。13F には約45日の遅れがある。 スマートマネー →

08

今後の注目事項

2026 年 11 月上旬	**第3四半期10-Q** 預託株式負債の残高、Fab 28事故の保険・損失の開示、設備投資コミットメント、顧客集中の更新。
2026 年 11 月	**Fab 28の生産再開** 経営陣の説明どおり11月初めにIntel 7サーバー製品の生産が回復するか。2027年第1四半期に影響が残るか。
2026 年 12 月	**FOMC** 利上げの有無。ベータ3.11の当社株は金利見通しの変化に敏感である。
2027 年 1 月下旬	**2026年第4四半期決算** 売上高が$15.0〜16.0Bに収まるか。調整後売上総利益率38.0%を維持できるか。2027年の設備投資額と第1四半期ガイダンス。CCPGの在庫調整の進捗。
2027 年一季度	**Intel 14A PDK 1.0** 経営陣のスケジュールどおりのリリース。今後2四半期で外部ファウンドリー顧客が公表されるか。
2027 年上半年	**PC・メモリ市場** 経営陣は2027年のPC出荷台数を約10%減と予想。メモリ価格とOEM在庫を注視する。

本レポートはリサーチ目的の参考資料であり、投資助言ではない。

出典

株価・アナリストデータ：yfinance + SEC EDGAR、2026-10-29 終値時点（遅延あり）。財務データ：SEC EDGAR（XBRL と原資料）。マクロ・ニュースは各項目のリンク先を参照。配色は赤が上昇、緑が下落。

- 8-K 第3四半期決算発表（2026-10-29）
- 10-Q 2026年第2四半期（2026-07-24）
- 10-K 2025年（2026-01-23）
- 8-K 普通株式の公募増資（2026-08-12）
- 8-K アイルランド合弁会社持分の買い戻し（2026-04-08）
- 8-K シニア債の発行（2026-04-30）
- Investing.com：第3四半期決算説明会記録（2026-10-29）
- Reuters（WKZO転載）：Fab 28爆発とPC需要の弱さ（2026-10-29）
- Times of Israel：Fab 28事故で2人目の作業員が死亡（2026-10-15）
- Gartner：第3四半期のPC出荷台数（2026-10-12）

CNN：10月FOMCの決定（2026-10-28）

Bloomberg：FRBと利上げ観測（2026-10-28）

Mitrade：10月22日の半導体株調整（2026-10-25）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/2026-10-29-intc · 2026-10-30 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。